

p 1 ~

序論

第1章 計画の概要	2
1. 計画策定の目的	2
2. 計画策定の基本方針	2
3. 計画の構成及び期間	3
第2章 社会情勢の変化	4
1. 想定を上回るスピードで進む人口減少	4
2. デジタル社会の進展	4
3. グローバル化の進展	4
4. 地球環境問題の深刻化と自然災害の脅威	4
第3章 白杵市の概要	5
1. 風土と歴史	5
2. まちの歩み	7
第4章 人口及び財政の状況	10
1. 将来人口の見通し	10
2. 財政状況	11

第1章 計画の概要

1 計画策定の目的

本市では、2013(平成25)年4月に市の最高規範となる「臼杵市まちづくり基本条例」を施行しました。総合計画は、この条例に規定する「総合的かつ計画的な市政運営を図るための基本となる計画」として策定し、まちづくりの基本的な方向性を示してきました。

第3次臼杵市総合計画は、これまでの取組を継承しつつ、さらに磨き上げるとともに、本市をとりまく様々な変化に対応するため、将来におけるあるべき姿と進むべき方向についての基本的な指針とします。

2 計画策定の基本方針

第3次臼杵市総合計画は、次に掲げる3つの基本方針に基づき策定しました。

(1) これまでの計画を踏まえて次世代へつなぐ

2005(平成17)年に旧臼杵市と旧野津町が合併して誕生した新臼杵市は、今年で20周年を迎えました。合併後最初の10年間、第1次臼杵市総合計画では「日本の心が育つまち～たくましさと温もりをめざして～」を将来像とし、新市としての一体感の醸成とそれぞれの地域の特性を活かしつつ、新たな臼杵のまちづくりに取り組みました。続く10年間の第2次臼杵市総合計画では「日本の心が息づくまち臼杵～『おだやかさ』と『たくましさ』を未来へつなぐ～」を将来像とし、本市の魅力や資源を活かしながら地域の活力を維持・発展させ「市民が暮らしの中で幸せを実感できるまちづくり」をめざしてきました。

本計画では、これら20年間の取組を踏まえ、時代の変化と要請に的確に対応し、次世代へつなぐ指針としてまとめています。

(2) 市民が主役のまちづくり

本市では、市民が幸せを実感できるまちの実現に向け「市民が主役のまちづくり¹⁾」を基本理念としています。

本計画の策定においては、中学生・高校生をはじめとする市民や関係団体へのアンケート、市民ワークショップなど、多様な手法を用いて幅広い意見を集約しました。これにより、真に市民の声を反映した計画となるよう努めています。

今後も、本計画の推進により、市民が幸せを実感できる「市民が主役のまちづくり」を進めていきます。

(3) 10年先、さらにその先を見据えたまちづくり

本市の未来を担うこどもたちのために、10年先、さらにその先を見据えたまちづくりに取り組む必要があります。食文化をはじめとする多様な本市独自の取組の深化など、持続可能な臼杵の実現に向けた取組を積極的に推進していきます。

用語説明 ¹⁾ 臼杵市まちづくり基本条例第3条(基本理念)

本市は、市民が幸せを実感できるまちの実現をめざすために、「市民が主役のまちづくり」をまちづくりの基本理念とする。

3 計画の構成及び期間

本計画は、「基本構想」と「基本計画」の2層構成とし、その内容と計画期間は以下のとおりです。具体的には、基本構想は10年間、基本計画は社会経済の環境の変化などに対応できるよう前期と後期に区分し、それぞれ5年間とします。



新白杵市施行20周年ロゴマーク

多角形・多色であり、線のつなぎ目をランダムにしています。
あらゆる人と人が手をつないで、白杵と野津を包み込んでいる
状態をイメージしています。

「多様性」と「包摂(ほうせつ)性²」を表現しています。

用語説明 | ²一定の範囲の中につつま込むこと。ある概念が、より一般的な概念につつまこまれること。

第2章 社会情勢の変化

1 想定を上回るスピードで進む人口減少

本市の人口は、2012(平成24)年以降、年間約500人規模の減少が続いており、2020(令和2)年では36,158人となっています。さらに、国立社会保障・人口問題研究所によると、10年後の2035(令和17)年には27,161人まで減少すると推計されています。その理由として、社会動態(転入者数から転出者数を差し引いた数)の減少幅は縮小傾向で推移しているものの、自然動態(出生数から死亡者数を差し引いた数)の減少幅は拡大傾向にあるため、依然として厳しい状況が続いています。

今後も人口減少及び少子高齢化が進展していくことを踏まえ、子育てや高齢者・福祉の支援、外国人労働者の受け入れに伴う支援など、時代の流れに応じた取組の推進が求められます。

2 デジタル社会の進展

スマートフォンやタブレットの普及により、インターネットなどのICT(情報通信技術)は、社会インフラとして日常生活や経済活動に定着した一方、情報セキュリティにおけるリスクの高まり、ネット犯罪の増加、高齢者などにおける情報格差の発生などの課題も顕在化しています。このようにデジタル技術の急速な進展は、個人生活や企業活動、都市機能、行政サービスなどの分野に大きな影響を及ぼしています。

そのため、日常生活のあり方や社会・経済の仕組みを根本から変革する「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」の加速化に伴い、行政分野においてもDXの推進が求められています。

3 グローバル化の進展

近年、日本の企業で働く外国人や日本に留学する外国人は増加傾向にあります。また、今後は、外国人観光客の誘客など、国境を越えた移動や交流がより一層推進されることが想定され、地域社会においても食文化や習慣、言語の違いなど、多様性を尊重し合う多文化共生の考え方が重要になっています。そのような中、本市においても、ユネスコ創造都市(食文化分野)への加盟により、ますます国境を越えた交流が図られることが予想されるため、外国人との交流の中で、お互いの文化を理解し、多文化共生の意識を醸成することが必要です。

4 地球環境問題の深刻化と自然災害の脅威

地球温暖化、酸性雨による森林や湖沼の被害、フロンガスによるオゾン層の破壊、乱開発による熱帯雨林の急速な減少など、国境を越えた地球規模での環境破壊が世界各地で顕在化しています。また、地震や豪雨などの自然災害の頻発・激甚化、記録的な猛暑などによる農林水産物や生態系への影響が一層深刻化していくことが懸念されています。

このような環境問題への対応は、国際的な取組に加え、地域社会における一人ひとりの意識改革が求められています。リデュース(排出抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)の取組の強化やエネルギーの効率的利用などを進め、持続可能な循環型社会の形成を図っていくことが求められています。

第3章 臼杵市の概要

1 風土と歴史

(1) 風土

本市は、291.20km²の面積を有し、大分県の東南部に位置します。東は豊後水道に面した臼杵湾に臨み、北西部は大分市・豊後大野市に接し、南西部は鎮南山・姫岳・冠岳・石峠山など比較的険しい山稜が津久見市・佐伯市と境を接しています。

地域の幹線道路である国道502号が臼杵市街から豊後大野市へ横断し、国道10号が野津地域を南北に縦断しています。東九州自動車道が臼杵市の中間位置を通り、臼杵インターチェンジにより大分や福岡、宮崎へのアクセスは良好です。

九州と四国をフェリーで結ぶ臼杵港は、2025（令和7）年3月に新フェリーターミナルが竣工し、九州の東の玄関口として役割を果たしています。

河川は、野津川が南西部を東西に流れ、臼杵川・末広川・熊崎川が臼杵湾に注ぎ、各河川沿いには水田がひらけています。畑地は野津地域の北側を中心に広がっています。

気象は、瀬戸内海型と南海型が混在し、年平均気温15～17℃、年間平均降水量1,500～1,800mmで、温暖多雨、自然条件にも恵まれていますが、過去400年間に3度の大きな地震と津波に見舞われています。



(2) 歴史

臼杵の歴史は古く、旧石器時代からの遺跡が市内随所に確認されています。特に、深田・中尾の国宝・特別史跡臼杵磨崖仏が造像された古代末期(平安時代)から中世にかけては、中央から一流の仏教文化がもたらされ、野津地域でも田野の重要文化財水地九重塔や八里合の重要文化財備後尾五輪塔をはじめとする仏教石塔が多く作られました。

中世の終わり、キリシタン大名大友宗麟が、三方を海に囲まれた丹生島に城(臼杵城)を築き、城下にキリスト教関係施設を整備したことで、キリスト教を通して西洋文化がもたらされ、異国情緒漂う城下町となりました。野津地域でもキリスト教が広まり、国史跡下藤キリシタン墓地や市有形文化財寺小路磨崖クルスをはじめとするキリシタン遺跡が数多く残されています。

近世(江戸時代)、稲葉氏が臼杵城主となったころから、臼杵城が改修され、島の西側に造られた三之丸には侍屋敷が、城下には商人の町並みが形成されました。この町並みは現在まで残されています。また、江戸中期以降、財政難に陥った臼杵藩で行われた村瀬庄兵衛による財政再建や質素儉約の政策は、「黄飯」や「きらすまめし」などの郷土料理を生んだといわれています。

明治になっても荘田平五郎や山本達雄など多くの政治家や経済人、文化勲章受章者をはじめとする優れた文化人・芸術家を輩出してきました。文化施設のない時代、荘田平五郎により図書館の寄贈を受け、教育の土壌がつけられました。民話で頓知やユーモアに富んだ「吉四六(きっちゃむ)話」なども生み出されました。

明治の初めに1町193村であった臼杵は、数度の変遷の後、1889(明治22)年の市制・町村制施行により旧臼杵市の原形となる臼杵町と10村及び旧野津町の原形となる5村に統合されました。臼杵町が、1950(昭和25)年に海辺村と合併して市制施行し臼杵市となり、1954(昭和29)年に佐志生村・下ノ江村・下北津留村・上北津留村・南津留村5村と合併しました。1949(昭和24)年4月に野津市村が町制を施行し、同年7月野津町と改称され、1951(昭和26)年に田野村、1955(昭和30)年に川登村、南野津村と合併し、1957(昭和32)年に戸上村14集落を編入合併しました。1950(昭和25)年市制施行の臼杵市と1949(昭和24)年町制施行の野津町が、2005(平成17)年1月1日に臼杵市として新設合併し、現在に至っています。



2 まちの歩み

2005-2014

2005(平成17)年～2014(平成26)年の主な出来事

- 2005** 平成17年
1月 ・白杵市・野津町合併(中野五郎市長職務執行者)
2月 ・後藤國利 初代市長就任
- 2006** 平成18年
3月 ・目黒区(東京都)と災害時の相互援助協定締結
4月 ・第1次白杵市総合計画 日本の心が育つまち～たくまじさと温もりをめざして～
- 2007** 平成19年
1月 ・市章・市の木・市の花決定
3月 ・深江小学校閉校
4月 ・消防野津分署業務開始
5月 ・映画「22才の別れ」公開
- 2008** 平成20年
3月 ・白杵祇園まつり 大分県無形民俗文化財指定
・深江中学校・上浦小学校閉校
- 2009** 平成21年
1月 ・中野五郎 二代目市長就任
3月 ・南津留小学校・中白杵小学校・戸上小学校閉校、戸上幼稚園閉園
4月 ・白杵南小学校開校
10月 ・地域振興協議会設立始まる
- 2010** 平成22年
8月 ・白杵市土づくりセンターオープン※写真
- 2011** 平成23年
3月 ・東日本大震災発生
・都松小学校閉校、都松幼稚園閉園
10月 ・二孝女物語・父娘の再会から200年目のお礼訪問
- 2012** 平成24年
1月 ・ほんまもん農産物¹販売開始※写真
3月 ・映画「種まく旅人」全国上映
- 2013** 平成25年
1月 ・国宝白杵石仏 地方自治法施行60周年記念500円硬貨発行
・中野五郎市長2期目就任
2月 ・新消防庁舎業務開始※写真
3月 ・田野小学校閉校、田野幼稚園閉園
4月 ・白杵市まちづくり基本条例施行
・白杵市・伊東市(静岡県)・横須賀市(神奈川県)・平戸市(長崎県)
4市でANJINプロジェクトパートナーシップ宣言
8月 ・映画「100年ごはん」完成・市民上映会
- 2014** 平成26年
2月 ・大雪により市内各所で雪害が発生※写真
3月 ・故・塩屋俊氏に市民栄誉賞を授与
・大分県立白杵商業高校・野津高校閉校
4月 ・白杵市歴史資料館開館
5月 ・白杵市観光交流プラザオープン※写真
9月 ・気仙沼市(宮城県)と災害時の相互援助協定締結
10月 ・白杵市観光PRキャラクター「ほっとさん」商標登録



白杵市土づくりセンターオープン



ほんまもん農産物販売開始



新消防庁舎業務開始



大雪により市内各所で雪害が発生



白杵市観光交流プラザオープン

用語説明 ¹ 完熟堆肥「うすき夢堆肥」で土づくりを行った圃場で、栽培期間中に化学肥料・化学合成農薬を使わずに栽培した農産物であり、白杵市が生産工程記録を審査し、白杵市長が認証した農産物。

2015-2020

2015(平成27)年～2020(令和2)年の主な出来事

2015
平成27年

- 1月 ・新臼杵市施行10周年記念式典
- 3月 ・川登幼稚園・南野津幼稚園閉園
- 4月 ・第2次総合計画策定 日本の心が息づくまち臼杵～「おだやかさ」と「たくましさ」を未来につなぐ～
- 10月 ・臼杵の地酒による乾杯条例制定(県内初)
・常陸太田市(茨城県)と姉妹都市提携調印



臼杵市総合公園子ども広場遊具
リニューアル

2016
平成28年

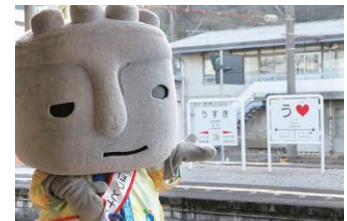
- 1月 ・臼杵市子ども・子育て総合支援センター“ちあぽーと”開設
- 4月 ・熊本地震発生(これによりANJINサミット中止)
・臼杵市総合公園子ども広場遊具リニューアル※写真
- 5月 ・福良ヶ丘小学校新校舎落成
- 9月 ・マレガプロジェクト協力協定の締結

2017
平成29年

- 1月 ・中野五郎市長3期目就任
- 3月 ・臼杵磨崖仏金剛力士立像 国宝に追加指定
・豊洋中学校閉校
- 5月 ・臼杵市・キャンディ市(スリランカ)姉妹都市提携調印50周年記念行事
- 7月 ・新臼杵庁舎を考える市民会議始まる(2018年4月に市民報告会)
- 9月 ・台風18号による甚大な被害(全国から多くの支援)
- 11月 ・ひやくすた Usuki Farmer's Market 開始

2018
平成30年

- 1月 ・田舎暮らしの本 住みたい田舎ベストランキング上位にランクイン
・臼杵ブランド認証制度(うすきの地もの)始まる
- 2月 ・う♥(すき)プロジェクト始まる※写真
- 8月 ・うすき石仏ねっと 第70回保健文化賞受賞
- 10月 ・臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会始まる
・下藤キリシタン墓地 国史跡指定(キリシタン墓地遺跡としては全国初)
・う♥(すき)応援大使の委嘱(板井麻衣子さん、一龍齋貞弥さん)
- 12月 ・う♥(すき)プロジェクト ぐる～かるCM大賞2018受賞



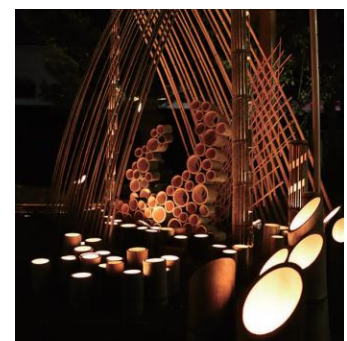
う♥(すき)プロジェクト始まる

2019
平成31年
令和元年

- 5月 ・元号が「平成」から「令和」へ
- 6月 ・妊産婦医療費助成制度開始(九州初)
- 10月 ・野津庁舎改修工事完了(市民生活推進課、農林振興課、農業委員会事務局)
- 11月 ・臼杵市社会基盤整備・災害支援センター開設(建設課、上下水道課移転)

2020
令和2年

- 1月 ・う♥(すき)応援大使の委嘱(鳥越裕介さん)
- 3月 ・臼杵幼稚園閉園
- 4月 ・新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令
・下南こども園開園
- 7月 ・うすき竹宵 日本夜景遺産に認定※写真
- 9月 ・市内18地区すべてに地域振興協議会設立
- 11月 ・野津市民交流センター“ゆるる”開設



うすき竹宵 日本夜景遺産に認定

2021-2025

2021(令和3)年～2025(令和7)年の主な出来事

2021
令和3年

- 1月 ・中野五郎市長4期目就任
- 4月 ・パートナーシップ宣言制度開始(県内初)
- ・東京2020オリンピック聖火リレー
(白杵川にて山内流泳法を披露)※写真
- 9月 ・白杵市みんなで取り組む認知症条例制定(九州初)
- 11月 ・ユネスコ創造都市ネットワーク(食文化分野)加盟認定



東京2020オリンピック聖火リレー

2022
令和4年

- 10月 ・白杵山内流伝承200周年記念式典

2023
令和5年

- 4月 ・保育料完全無償化始まる
- 5月 ・新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行
- 10月 ・NHK大河ドラマ「どうする家康」に三浦按針登場(紀行巡礼にて黒島が紹介される)
- 11月 ・体験型観光ツアー「USUKI VENUE」開催

2024
令和6年

- 3月 ・移住者2,000人突破(補助制度2015(平成27)年～)
- ・野津幼稚園閉園
- 4月 ・子ども医療費完全無償化(18歳まで)始まる
- 5月 ・う♥(すき)メディカル応援大使の委嘱(松原悦朗さん)
- 9月 ・白杵市パークゴルフ場オープン(不燃物埋立て処分場の跡地利用)※写真
- 10月 ・白杵市性の多様性の尊重に関する条例施行
- ・おおいた消防指令センター本格運用開始(大分市荷揚町)
- 11月 ・令和6年八町大路火災



白杵市パークゴルフ場 オープン

2025
令和7年

- 1月 ・新白杵市施行20周年記念式典
- ・西岡隆 三代目市長就任
- 3月 ・白杵港新フェリーターミナル竣工※写真
- ・白杵城跡 国史跡指定
- 4月 ・小中学校の給食費無償化始まる
- ・白杵市多世代交流館“のつてらす”オープン※写真



白杵港新フェリーターミナル竣工



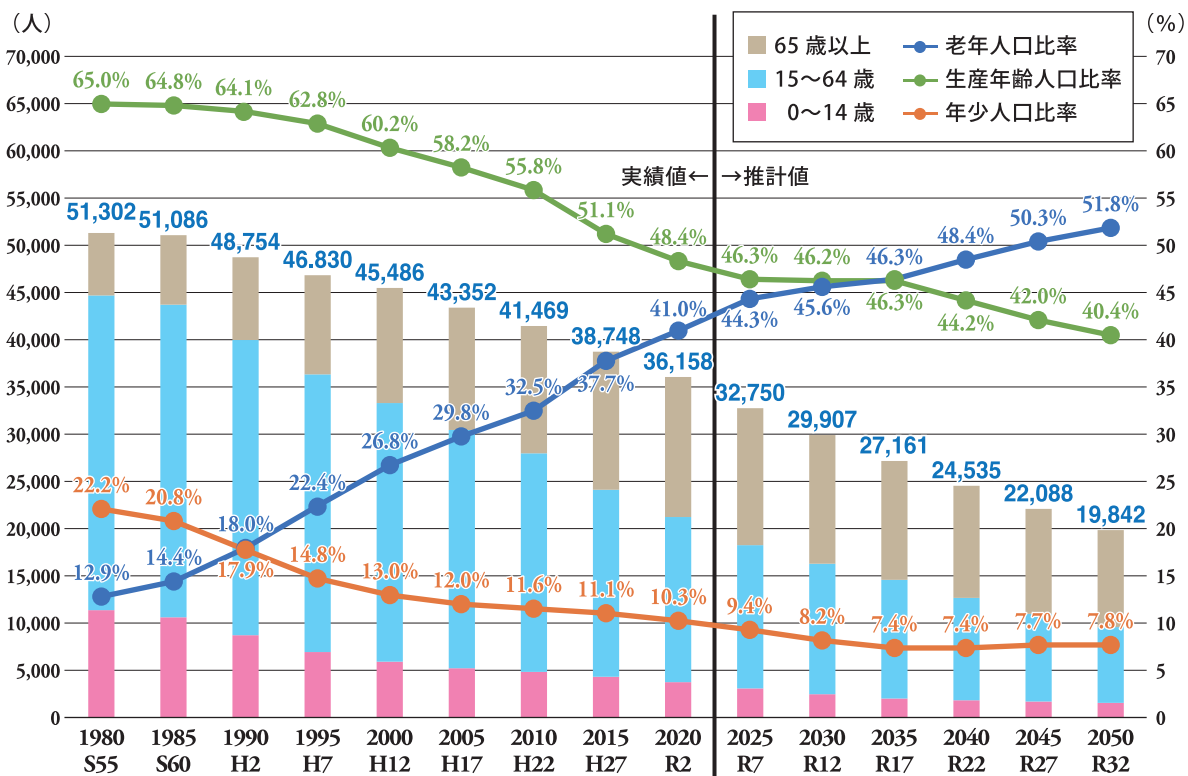
白杵市多世代交流館“のつてらす”オープン

第4章 人口及び財政の状況

1 将来人口の見通し

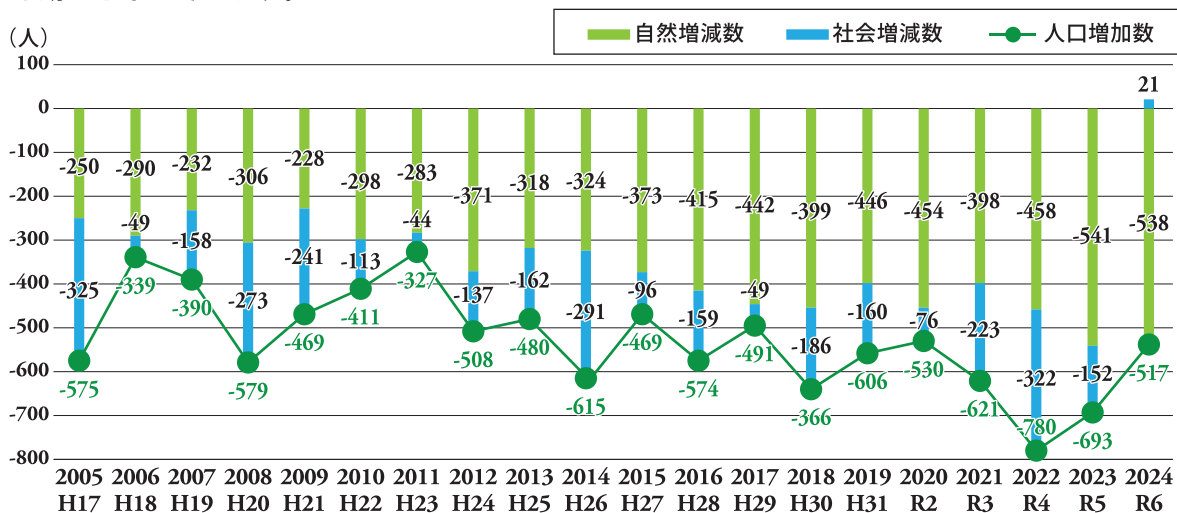
本市の人口の推移を見ると、1980(昭和55)年に51,302人であった総人口は、2020(令和2)年には、36,158人と15,144人減少しています。2025(令和7)年以降の将来推計も総人口は減少する見通しとなっています。

また、年齢3区分(0~14歳・15~64歳・65歳以上)を見ても、少子高齢化が進展し、生産年齢人口が大幅に減少する見通しとなっており、65歳以上人口は2030(令和12)年に45%を超える割合になっています。



※総人口は不詳人口込みの数字のため、各年齢別人口の合計値と総人口は必ずしも一致しない
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

人口は一貫して減少しているものの、その中身は自然増減及び社会増減に分けられます。自然増減は、減少に歯止めがかからず減少幅が拡大傾向にあります。社会増減は、増減数に波があり、自然増減とは異なる動きとなっています。



※各年1/1データであり、実際の人口移動期間は直前の1/1~12/31の1年間の移動数を示しています。
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

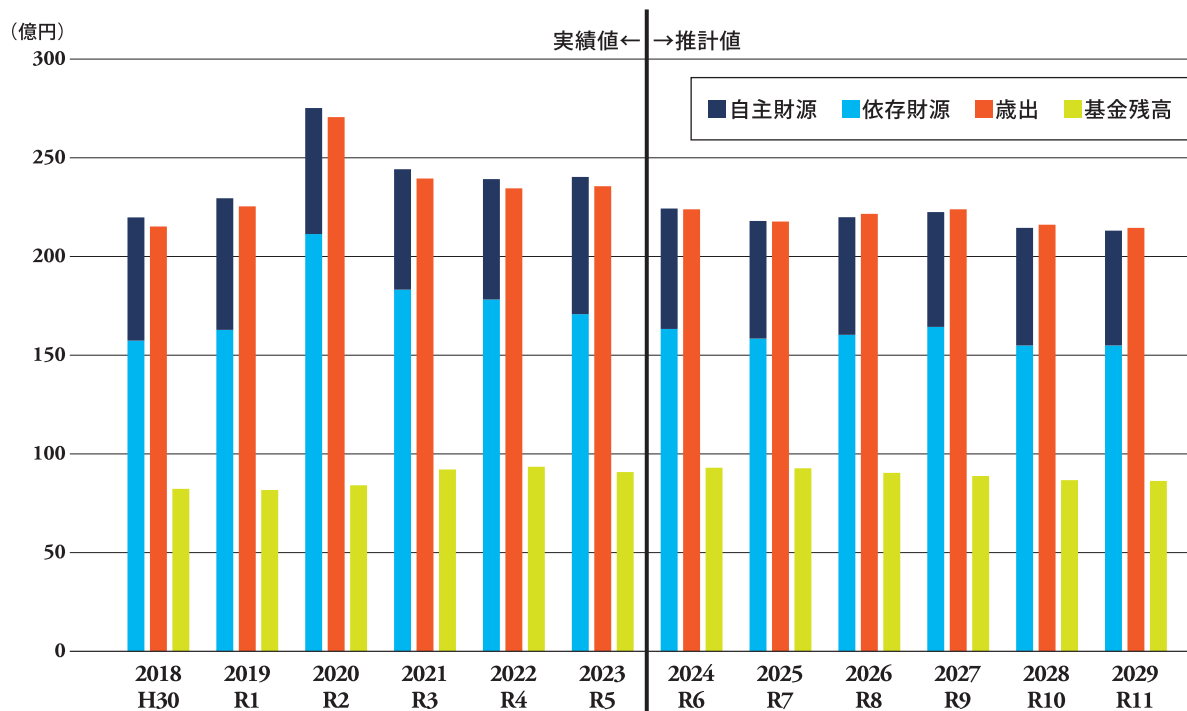
2 財政状況

本市の歳入は、2020(令和2)年度に、新型コロナウイルス感染症対策の補助金等の影響により、大幅に増加しましたが、その後は減少傾向にあります。

また、歳出は2020(令和2)年度に新型コロナウイルス感染症対応などの影響で大きく増加したあと、2021(令和3)年度に減少しますが、2019(令和元)年度の水準と比べると依然として高い金額を推移しています。

今後、本市の財政状況は、物価高騰や少子高齢化の進展に伴う課題解決に対する費用の増加などが見込まれ、限られた財源の中でメリハリのある予算配分を行うことで、まちの将来像の実現に向け効率的かつ効果的な取組の推進が求められます。

中期財政収支の試算



年度	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11
歳入	219.8	229.5	275.2	244.2	239.2	240.3	224.3	218.0	219.9	222.5	214.5	213.1
自主財源	61.9	66.8	62.6	59.8	60.9	68.7	60.5	59.5	58.8	58.2	58.4	58.1
依存財源	157.9	162.7	212.6	184.4	178.3	171.6	163.8	158.5	161.1	164.3	156.1	155.0
歳出	215.2	225.4	270.6	239.5	234.2	235.6	223.9	217.7	221.6	223.9	216.1	214.5
基金残高	82.3	81.7	84.1	92.1	93.5	90.8	93.0	92.6	90.4	88.8	86.7	86.3

※2024(R6)年度以降は推計値
出典：白杵市中期財政計画



『未来につなげたい白杵の魅力』
スマホ写真コンテスト受賞作品 優秀賞 「雨中疾走！」

